

飼料用米の取組状況

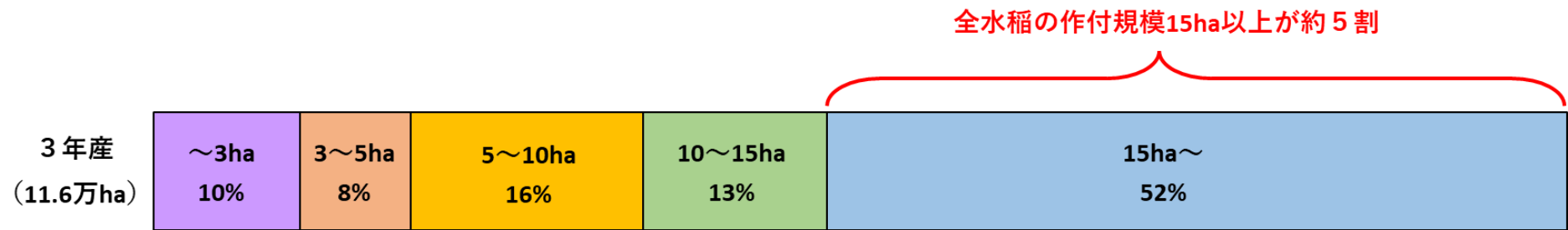
- 飼料用米作付面積はR3年度からR4年度にかけて2.6万ha拡大し、過去最高の14.2万haとなった。近年、多収品種の導入や区分管理での取組による本作化が進展してきたが、R4年度は、多収品種の取組の拡大は、2.6万haの拡大のうち0.6万haに止まり、一般品種の増加が顕著であった。
- また、飼料用米の生産の約5割が経営規模（全水稻の作付面積）が15ha以上の大規模農家により担われている。

【飼料用米の作付・生産状況】

	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4
飼料用米作付面積（万ha）	8.0	9.1	9.2	8.0	7.3	7.1	11.6	14.2
うち、多収品種の作付面積（万ha）	3.0	3.9	4.6	4.5	4.3	4.0	4.6	5.2
割 合	37%	43%	50%	56%	60%	56%	39%	37%
うち、区分管理の取組面積（万ha）	6.0	7.3	7.6	7.0	6.5	6.3	9.1	11.3
割 合	75%	80%	83%	88%	89%	89%	78%	80%
飼料用米生産量（万トン）	44	51	50	43	39	38	66	80

注：「区分管理」とは、主食用米を生産する圃場とは異なるほ場で飼料用米のみを作付ける手法で、主食用米と同一のほ場で飼料用米を生産する「一括管理」と比べて、多収品種の導入が容易で、飼料用米の定着が期待できる。
「飼料用米生産量」は、実際の収量を反映した実績値。

【飼料用米作付における、農業者の規模別（全水稻の作付面積）の飼料用米の分布状況】



令和4年産飼料用米の出荷方式、品種別面積

単位:ha

	作付 面積	出荷方式別面積				飼料用米の品種別面積			
		一括 管理	割合	区分 管理	割合	一般 品種	割合	多収 品種	割合
北海道	7,094	946	13%	6,148	87%	2,595	37%	4,499	63%
青森	9,085	196	2%	8,889	98%	3,595	40%	5,490	60%
岩手	5,830	443	8%	5,388	92%	1,343	23%	4,487	77%
宮城	10,416	1,194	11%	9,221	89%	9,400	90%	1,016	10%
秋田	5,279	2,056	39%	3,223	61%	3,737	71%	1,543	29%
山形	5,236	1,092	21%	4,144	79%	1,622	31%	3,614	69%
福島	12,631	4,495	36%	8,136	64%	10,240	81%	2,391	19%
茨城	14,375	1,901	13%	12,474	87%	10,920	76%	3,455	24%
栃木	15,716	116	1%	15,599	99%	15,359	98%	356	2%
群馬	1,575	461	29%	1,114	71%	1,493	95%	82	5%
埼玉	3,771	1,858	49%	1,913	51%	3,239	86%	532	14%
千葉	10,706	4,554	43%	6,152	57%	6,319	59%	4,388	41%
東京	0								
神奈川	11	11	96%	0	4%	11	96%	0	4%
新潟	4,578	1,947	43%	2,630	57%	2,682	59%	1,896	41%
富山	2,149	210	10%	1,938	90%	1,239	58%	910	42%
石川	1,767	743	42%	1,024	58%	1,454	82%	313	18%
福井	2,078	300	14%	1,778	86%	965	46%	1,114	54%
山梨	21	4	20%	17	80%	13	62%	8	38%
長野	512	284	55%	229	45%	315	61%	197	39%
岐阜	3,712	1,899	51%	1,813	49%	2,717	73%	995	27%
静岡	1,191	5	0%	1,186	100%	432	36%	759	64%
愛知	2,450	1,724	70%	727	30%	2,210	90%	240	10%
三重	2,497	220	9%	2,277	91%	1,370	55%	1,127	45%

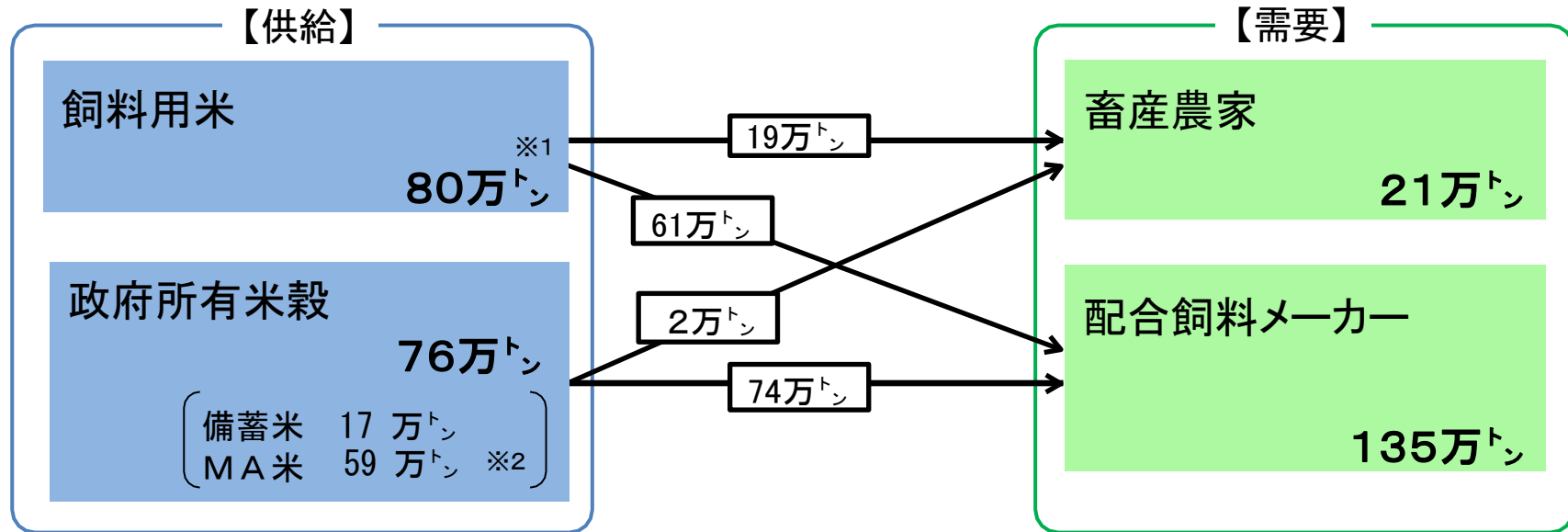
	作付 面積	出荷方式別面積				飼料用米の品種別面積			
		一括 管理	割合	区分 管理	割合	一般 品種	割合	多収 品種	割合
滋賀	2,090	366	18%	1,724	82%	1,406	67%	684	33%
京都	140	0	0%	140	100%	53	38%	87	62%
大阪	6	6	100%	0	0%	6	100%	0	0%
兵庫	761	8	1%	753	99%	268	35%	492	65%
奈良	64	15	24%	48	76%	52	81%	12	19%
和歌山	3	1	37%	2	63%	1	37%	2	63%
鳥取	837	0	0%	837	100%	19	2%	818	98%
島根	866	5	1%	862	99%	73	8%	793	92%
岡山	2,002	950	47%	1,052	53%	1,392	70%	609	30%
広島	518	20	4%	498	96%	189	36%	330	64%
山口	1,109	0	0%	1,109	100%	322	29%	787	71%
徳島	1,017	614	60%	402	40%	682	67%	335	33%
香川	162	34	21%	128	79%	74	46%	88	54%
愛媛	299	69	23%	230	77%	100	33%	199	67%
高知	1,079	151	14%	928	86%	726	67%	353	33%
福岡	2,482	0	0%	2,482	100%	2	0%	2,480	100%
佐賀	821	0	0%	821	100%	129	16%	693	84%
長崎	121	8	7%	113	93%	66	55%	55	45%
熊本	1,672	62	4%	1,610	96%	282	17%	1,391	83%
大分	1,802	1	0%	1,801	100%	245	14%	1,557	86%
宮崎	687	11	2%	677	98%	162	24%	526	76%
鹿児島	835	136	16%	699	84%	477	57%	358	43%
沖縄	1	1	100%	0	0%	1	100%	0	0%
合計	142,055	29,118	20%	112,936	80%	89,996	63%	52,059	37%

注 1：東京都及び沖縄県では飼料用米の作付けはない。
注 2：「一括管理」とは主食用米と同一のほ場で飼料用米を生産する管理方法であり、「区分管理」とは主食用米を生産するほ場とは異なるほ場で飼料用米のみを作付ける管理方法である。
注 3：「多収品種」とは「国の委託試験等によって育成され、一般品種と比べ子実の収量が多いことが確認された品種」及び「一般的な品種と比べて子実の収量が多く、当該都道府県内で主に主食用以外の用途向けとして生産されているもので、全国的にも主要な主食用品種でないもののうち、知事の申請に基づき地方農政局長等が認定した品種」である。

飼料用米の供給状況

- 現状、飼料用に156万トンの米が畜産農家・配合飼料メーカーに供給されているところ。

米の飼料用としての供給量(令和4年度)



※1 令和4年産の生産量

※2 数量は実トンベース

出典:農林水産省穀物課調べ

【今後の課題】

- 配合飼料の主原料であるとうもろこしと同等、またはそれ以下の価格での供給が必要。
- 飼料工場毎の施設規模や配合設計・計画に見合う安定的な供給が必要。(短期・大量の受け入れは不可)
- その他、飼料用米の集荷・流通・保管施設や直接供給体制の構築等の集荷・調製等に伴うコスト削減等の体制整備が必要。

配合飼料メーカーの立地状況と飼料用米の集荷・流通体制

- 飼料用米の産地は全国に存在するが、配合飼料工場は、主に、太平洋側の港湾地域に立地が集中。
- 飼料用米については、生産者団体による飼料用米の集荷・流通体制が確立されていることから、稲作農家自らが需要先の確保や配合飼料工場への供給に携わらずとも、飼料用米の生産に取り組むことが可能。

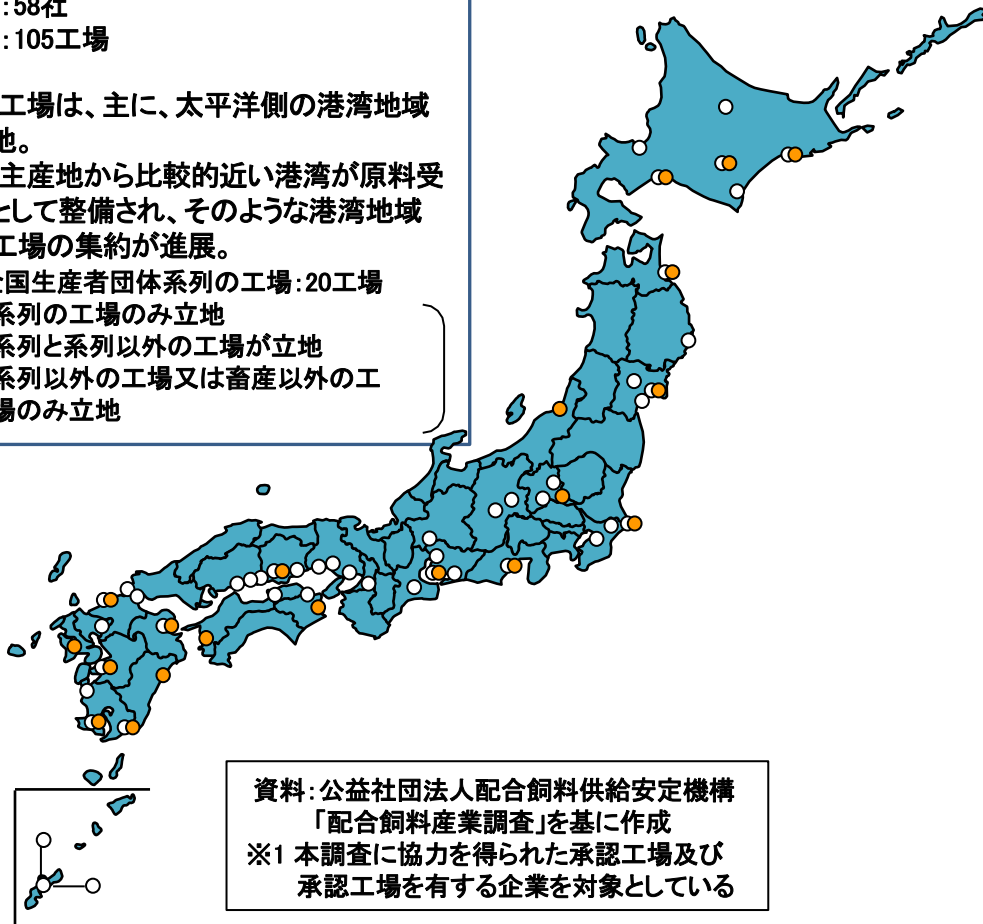
配合飼料工場の立地状況※1

企業数: 58社
工場数: 105工場

- ・ 飼料工場は、主に、太平洋側の港湾地域に立地。
- ・ 畜産主産地から比較的近い港湾が原料受入港として整備され、そのような港湾地域への工場の集約が進展。

うち全国生産者団体系列の工場: 20工場

- 系列の工場のみ立地
- 系列と系列以外の工場が立地
- 系列以外の工場又は畜産以外の工場のみ立地



資料: 公益社団法人配合飼料供給安定機構
「配合飼料産業調査」を基に作成

※1 本調査に協力を得られた承認工場及び承認工場を有する企業を対象としている

全国生産者団体による飼料用米の集荷・流通体制

